

フォレストニュース

植林が地球を救う

平成26年(2014)8月10日

No. 80

発行 高津啓洋

パラグアイ川の増水続く



水没し、つなぎ服を着て状況のチェックをしています。また、カピバラが宿舎の階段を寝床にしたがり、増水で行き場のなくなった動物たちが押し合いへし合いといった状況となっています。下の動物の写真は、増水で寝床を奪われたアルマジロが宿舎の近くで、途方に暮れている姿です。ただじつ

として現地の人に食われてしまいますので早くどこかに隠れたほうがいいのですが。一方、800キロ下流の首都アスンシオンでは7月の初めに、15万人が避難し、深刻な被害をもたらした洪水でしたが、徐々に収まりつつあるとのことです。20年ぶりとなる一昨年(2011年)の洪水では、植樹林がかなり被害



を受けましたが、今回も同じ木々、同じ地域が被害を受けたとのことです。これには、洪水を防げる地域への移転植樹を検討しています。

10・11月はどんぐり拾い

東京都中央区にある浜離宮恩賜公園を8月1日に訪ねました。タブの木の実を拾うためです。ほんの少しだけ、タブの実が木に残っていましたが、ほとんどは鳥に食べられたか、下に落下していました。この公園は徳川家の別邸としてさらに宮内庁の離宮として使われてきたものが、東京都に寄贈されたものです。歴史があるだけに、ここにあるタブの木は大きく立派です。

大手門から入るとすぐに、三百年の松があり、その前に大きなタブの木があります。



また、人があまり通らない木陰には、実生の苗が無数に生えていました。公園全体にタブの木が多数あります。果実は漿果(しょうか)で球形。7~8月に黒紫色に熟し、古くから天より降る木と言われ、鳥が好んで食べ、種子散布したことによります。(詳細は今年の夏季号の号外版に掲載されています)(戸石)

今年も、10月11日はどんぐり拾いの季節になります。フォレストニュース9月10日号(81号)に次のどんぐり拾いの予定を掲載しますので、多くの方の参加をお待ちしています。